

FLORA KANAGAWA

10. MAY 1985

神奈川県植物誌調査会ニュース第19号

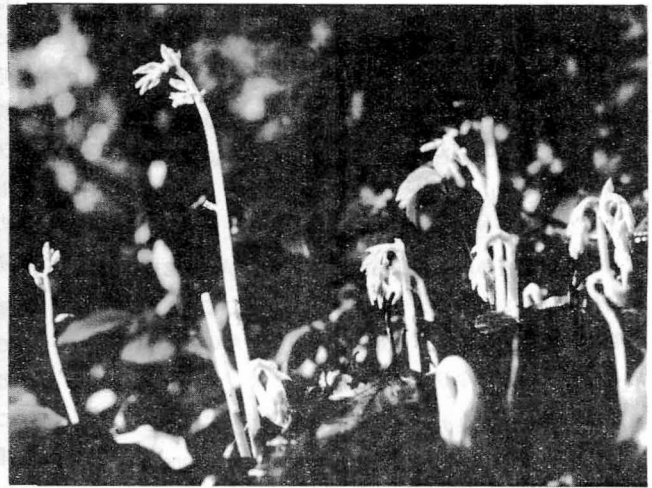
231 横浜市中区南仲通り 5-60

神奈川県立博物館内

神奈川県植物誌調査会 (振替 3-10195)

TEL. 045-201-0926

No. 19



タシロラン

タシロラン (*Epipogium roseum*) は常緑樹林下にはえ、6月末から7月にかけて、葉の無い茎が現れ、次々に花をつけます。全体白色ですが、わずかに葉鞘と唇弁に赤紫の斑点があります。1958年、大谷茂先生により三浦半島で初めて発見されたとき、タカトリランとして発表されました。

三浦半島では鷹取山や観音崎など数カ所で発見されていますが、本州では珍し

く、ほかに伊勢の記録があるだけです。普通は九州以南でみられ、オーストラリアやアフリカにまで分布しています。オニノヤガラやツチアケビのように、ある種のキノコに依存して生活していると考えられるので、気候や種子の重さ(非常に軽い)だけでは、飛び離れた分布の原因を推測する事ができません。

大森雄治

三浦地区の概況

昭和57年3月28日、第1回仮目録をいただいた時、三浦地区(鎌倉を除く)において、メモによる記載が大変多い点について高橋秀男氏から指摘がありました。指摘された通り、鎌倉を含めての標本点数(S標記)2381に対し、メモ点数(m標記)はこれよりも多い3091ありました。調査会の基本方針として、調査はすべて標本によるもので、メモでは証拠とならないということで、今後これらのメモを標本によって消化することが課題となりました。三浦地区調査員は当時17名でしたが、鎌倉を除く9メッシュについて、メッシュ担当者を2名ずつ定め活動に入ることになりました。

第1回目録では各メッシュ間に標本点数にも大きな差があり、最も集まりの良い逗子市の621に対し、私の担当した久里浜Y0-4ではわずかに34でした。鎌倉市は当初から別扱いになっており、活動も鎌倉を除いてなされたのですが、KA-1は採集する人が少なく、標本も45点しか集まっていない所から、私個人で随分多く出かけ採集につとめました。

主として標本採集に協力して下さった方は次の通りです。

鈴木一喜、西山清治、鈴木慶司、石渡宏、大森雄治、山内好孝、石渡治一、石井藤太郎、大前 宏、遠藤保之助、鈴木美保子、山本久子、浜中義治

84年2月の時点では、残存メモ数も911にまで減少し、2年間の調査の成果があらわれていますが、第2回の仮目録では、これらのメモはすべてカットしていただき、帳簿上ではメモはほとんどなくなりましたので、すっきりした気持ちになりました。

3年後の85年3月の現時点では実標本点数は鎌倉を含めて7286に達し、当初の2381から見ると、約5000の増加になります。全域存在植物、即ちKA-1からJOまで11メッシュにわたってくまなく存在を認められた植物数は、全部で219種になりました。

調査の基本方針として、まずメモをうめること、またごく普通にある植物を各メッシュにわたってくまなく採集し、全域存在植物の数を増すことにつとめました。調査研究が進むにつれて、今まで三浦半島に記録されたことのない植物名も数多く登場し、また分類上細かく観察が進み、今までは区別されていなかった変種や新しい品種もあらわれて来たことは、研究の成果の一つであると思います。

次に私が出会った珍しい植物(主として単子葉イネ科、カヤツリグサ科の植物)についていくつかを紹介したいと思います。

キバナモクセイソウ(モクセイソウ科)

昭和56年5月1日横須賀市長浦港の道路の溝に白色の花をつけている見慣れない草本があったので、2枝ほど折って持ち帰り、山内好孝氏、大場達之氏に同定していただき、キバナモクセイソウという帰化植物であることがわかりました。その後何度か行ってみましたが、溝の花はきれいに刈り取られ、遂に再び見つけることは出来ませんでした。葉は羽状に深裂し、側裂片は1-2対で、裂片の先は鈍頭、全縁で、花は淡黄色で総状に10cm位ついていました。

コガネガヤツリ(カヤツリグサ科)

昭和58年11月1日横須賀市観音崎公園の造成地内に生育していたスゲは、一応キンガヤツリと同定されていましたが、その後横浜港山下埠頭で同種の多数の個体を見たので、比較研究して同じ種であることがわかった。果実は鱗片の3分の1長、また花柱は果体の2倍であることからコガネガヤツリと同定したもので、キンガヤツリは三浦地区ではまだ見つかっていない。

クロテンツキ(カヤツリグサ科)

昭和59年9月7日鎌倉高校付近の宅地で発見。私は手賀沼で採集したことがありますが、県下では川崎市多摩区に記録があるのみなので、珍しいものと思われま。傘形の花序には8-10個の枝があり、その端に淡黒褐色の小穂が1個ずつつきます。鱗片は卵形黒褐色で中脈は隆起し縁は膜質、柱頭2個です。テンツキとは無葉身の鞘が基部にあることで異なり、ヒデリコは柱頭3個なので異なります。

ナガボテンツキ(カヤツリグサ科)

この種は海岸の潮だまりのような所に生育するため、三浦独自の種といえます。三浦市の毘沙門海岸や江奈湾に生育が見られましたが、数度の台風で根が洗い流され少なくなりました。イソヤマテンツキと混生していて見誤り易いのですが、小穂は長さ1-2cmで、イソヤマテンツキの8-15mmより大きく、草丈も大きいようです。果実には格子紋があればナガボテンツキということで見分けられます。私はまだ採集していませんが高橋秀男先生が良い標本を採って居られます。53年10月29日毘沙門の標本(西山清治氏採集)が入って居ります。

メアゼテンツキ(カヤツリグサ科)

他の地区でも若干採られています。鎌倉市の水田でヒメヒラテンツキと混生していました。糸状の小草で見逃し易い。花柱の基部に長絹毛があり果体にたれているということで見分けられます。

ヌマガヤツリ (カヤツリグサ科)

57年9月6日横須賀市久里浜の工業団地の溝の中で採集しましたが、溝の掃除でなくなってしまう可能性があります、一時的な存在と思われます。

エダウチネズミムギ (イネ科)

ネズミムギの花序がいくつかに分かれる異型ですが、55年5月19日横須賀市池上の我が家の近くで発見したものは、一平面上に枝分かれしたものが全体としてナギナタ状の趣を呈した立派なものでした。その後59年に池上の他の場所で再び見つけ、また山内氏もY0-2で発見されて標本が入っております。

ヒゲシバ (イネ科)

鎌倉市腰越津の団地内で59年10月26日発見。人家の建っていない区画の空き地にウシクサが沢山枯れ残って生えているのを見つけ、採集しているうちに一寸変わった小草が点々とあるので何気なく採りました。高さ10cmの小草で基部は2-3に分岐し、葉は線状皮針形で縁に長毛が疎生しています。小穂は円形で赤紫褐色を帯びつやがあります。恐らく運んだ土の中に種子が残っていたと思われませんが、大場先生が指摘されたように珍しいものだと思います。住宅が建てばまた消えて行く定めのようなようです。

アシカキ (イネ科)

横須賀市舟倉町の水田の傍らに廃田があり、その湿地の中に一群が生育していました。茎は節に毛が密生しており、小穂には包穎がなく、内外穎には縁辺に長毛があるため、同定は容易です。三浦地区ではただこの一株だけです、その後行って見て健在であることを確認しています。58年8月5日採取。

ワセオバナ (イネ科)

三浦地区では久里浜町国立病院の付近にだけあります。57年10月16日知人の車で案内していただき、はじめて生育を知りました。少し時期が過ぎていた故か、ススキに似た穂は果実に柔らかい長軟毛があり、ちょっとした風にも飛び散り易い。

マコモ (イネ科)

59年7月30日横須賀市吉井の水田傍の水たまりにあり、三浦地区ではここだけです、人が植栽した可能性があり、自生のものかどうかは不明です。

この他三浦地区としては珍しい植物と思われるものが最近発見されています。

ハリノホ、ムラサキネズミノオ、センダイスゲ、ムカゴオウシノケグサ、ニガカシュウ。 (浜中義治)

三浦ブロック羊歯植物

1 概要

東に房総半島、西に伊豆半島そして南に相模灘、総面積162.92kmの半島で、その中央近くに、大楠山系、北に二子山系、南に武山山系が、何れも北西から東南にかけて伸びている。その谷を流れる平作川、下山川、前田川等の川が、谷にそって流れ、北面を好む羊歯植物も割合に豊富だといえよう。否、羊歯に限らず他の植物も面積のせまい割りに種類も多いといつてよいだろう。

また、古くから植物学者の調査もあり、特にPaulamedee Ludovic Savatier 博士(1875)の「日本植物目録」には約800種の植物が、横須賀とその付近で採取記録されている。

近年では「三浦半島植物誌」Florula Miurensis (増島・石渡、1950)によれば981種が記録されている。今回の調査で、以前記録されていて、今では全く見られない植物、反対になかったものが新しく確認されたものも多い。

なお、地質を見ると半島は厚い水成岩層を基礎とし、この岩層は地質学の方からいうと新生代第三紀のもので、浮石質砂岩及び礫岩とからなっている。(半島植物誌より)このような環境条件に於ける羊歯植物についてはどうなのだろうか。

2 羊歯植物

これまでの調査では、約19科127種を記載することができると思われる。勿論これが総てではない。今後の学問の進歩による分類、また調査時の見落とし等から考えられることである。以下、貴品とか珍品と思われるものをAとBに分けて記載する。

A 稀少羊歯 (1か所のみで確認したもの)

- ・オクタマゼンマイ (ぜんまい科) Osumundaceae.
1984, 5, 27 葉山
- ・ウチワゴケ (こけしのぶ科) Hymenophyllaceae.
1985, 12, 23 鎌倉
- ・クジャクフモトシダ (いのもとそう科)
Pteridaceae. 1984, 1, 4 沼間
- ・アマクサシダ (いのもとそう科) Pteridaceae.
1980, 11, 30 衣笠
- ・イワヘゴ (おしだ科) Aspidiaceae.
1984, 5, 27 葉山
- ・オニヒカゲワラビ (おしだ科) Aspidiaceae.
1983, 11, 27 鎌倉
- ・ハチジョウウベニシダ (おしだ科) Aspidiaceae.
1984, 5, 27 沼間
- ・ホホベニオオベニシダ (おしだ科) Aspidiaceae.
1984, 5, 27 沼間

- ・ホウビシダ (おしだ科) *Aspidiaceae*.
1982, 1, 4 神武寺
- ・コタニワタリ (ちゃせんしだ科) *Aspleniaceae*.
1963, 1, 13 1985, 1, 4 (再確認)
- ・ヒトツバ (うらぼし科) *Polypodiaceae*.
1984, 5, 5 衣笠町
- ・キジノオシダ (きじよのおしだ科)
Plagiosyriaceae. 1984, 5, 27 沼間

B 点在している (数株) 保護が必要

- ・ヒロハハナヤスリ 秋谷 衣笠
- ・コシダ 田浦 神武寺 長沢
- ・ウラジロ 馬堀 野比 長沢 田浦
- ・ハマホラシノブ 三戸浜 毘沙門
- ・イワヒメワラビ 池上 田戸台 野比
- ・フモトカグマ 神武寺 二子谷
- ・マツザカシダ 観音崎 その他
- ・セフリイノモトソウ 各所 (稀)
- ・オオバノハチジョウシダ 木古場
- ・コウヤワラビ 長沢 走水
- ・オリズルシダ 神武寺 田浦 沼間
- ・ミドリベニシダ 沼間
- ・オオカナワラビ 沼間 葉山 公郷 (絶)
- ・ヘビノネゴザ 浦郷 沼間 衣笠
- ・クリハラシ 葉山 鎌倉
- ・ハシゴシダ 走水 大楠山
- ・コバノヒノキンダ 逗子 葉山
- ・セイタカシケンシダ 逗子
- ・ドウリョウウイノデ 葉山

3 その他

これまで (調査前) 記録されている羊歯で、今回観察できなかった、マツバラシ、ヒカゲノカズラ、トウゲ

シバ、ナガホノナツノハナワラビ、オウレンシダ、シノブ、オオキジノオ、ハカタシダ、オニカナワラビ、カラクサイヌワラビ、メヤブソテツ、タニヘゴ、ミサキカグマ、サクライカグマ、イヌイワヘゴ、ナライシダ、ヒカゲワラビ、オオヒメワラビ、ヒトツバジュウモンジ、シシガシラ、クモノスシダ等これらの中には、道路の開通、宅地造成、崖崩れ、杉林の伐採による環境条件の悪化が原因していると思う。中には完全に宅造の為に絶滅したものもあるが、調査の不十分より見当たらないものもある。 (今後の調査に期待)

また、ある時突然一株が表われ、半島では珍品と思いつながり大切にしておく、1、2年で、全くその場所に無くなってしまふ羊歯、ハマホラシノブ、シシガシラ、タニヘゴなどがあつた。これは羊歯に限らず顕花植物でもそのようなことがある。例えば、ハマアザミ、グンバイヒルガオがそれである。

照葉樹林の比較的残されている観音崎、猿島、城ヶ島では、多くの暖地性のつる植物の地床には、イノデ、中でもアスカイノデ、オニヤブソテツ、ベニシダ等多くみられる。その他、二子谷の川筋の植林されている杉林、田浦の谷、逗子、葉山等のリョウメンシダの大群落がみられる。また、神武寺の上部では、ホソバカナワラビの群落、谷筋には、リョウメンシダのなかにフモトカグマ、フモトシダ、オリズルシダ、ベニシダ、ナチシケンシダ等があり、コンテリクヤマゴケ、ヒトツバもあるが、多分栽培品と思われた。近年、国立科学博物館の中池博士が、ジンムジカナワラビ (*Arachniodes aristata* x *standishii*) を発見された。

半島内は、どの沢、谷にもコバノカナワラビ、リョウメンシダが混生しているが、カワズカナワラビ、 (*Arachniodes* x *kenzo-satakei*) (Kurata) Kurataを見ることがない。これ等も今後の楽しみの一つである。

(西山清治)

葉山町の調査を分担して

葉山地区は、三浦半島の相模湾に面して、近くの二子山 (208.7m) と大楠山 (241.7m) とに接している。気候は三浦半島の中でも温暖な所であり、自然景観の良い所である。しかし、近年どこの地区でも行なわれているように宅地の造成化、高速道路の敷設、道路の拡張、ゴルフ場の建設、河川の護岸工事等で多くの森林が切り倒されたり、山が削られ、池が埋められ、田畑も消えていってしまった。私が30年前に野外植物に興味を持ち、葉山地区の野山を歩き始めた頃と比較するとその差は甚だしい。従って多くの貴重な植物も今は全く姿を消してしまつたか、ほんのわずかしか残存していないという現

状である。また、最近、植物に親しむ人が増えたのは嬉しいが、やたらと野外植物、特に珍しいという生育しているものすべて持ち帰ってしまうという人々がいることは、嘆かむしいことである。稀産の植物、貴重な植物については、(生育場所) 口外することができないと思う。

今回の植物調査で気づいたことのいくつかを記すこととする。

- 1 葉山の上山口の梅の木には以前はヨウクラランが着生しているのを容易に見ることができたし、別の木にはフウランもあつた。それが今回の調査では、

残存しているものがほんの数株ということになって
いることがわかった。その他、ヒトリシズカ、ミヤ
マウズラ、キツネノカミソリ、イチヤクソウ、シュ
ンラン、ワレモコウ、エビネ、イワタバコ等の株数
が減り、生育地についても点在する程度となった。

2 ニワトコは葉山ではそう珍しい植物ではないが、
今回の調査で長柄にニワトコとキミノニワトコが並
んで生えている所があるのがわかった。比較観察上
極めて好都合である。

3 葉山地区のシダとして、リョウメンシダ、イノデ、
ミウライノデ、ベニシダ、ヤマイタチシダ、アスカ
イノデ、クマワラビなどは、どの林の中でも見るこ
とができる。しかし、ハコネシダ、ホウライシダ、

コバノヒノキシダ、ホソバカナワラビとなるとその
数は少なくなる。オオバノハチジョウシダにいたっ
ては数株しかないし、クリハランについても同じで
ある。今回の調査中、クリハランの生育地が新しく
見つかったことは嬉しいことだった。

4 長柄には、ホトトギスとヤマホトトギスが混生し
ている。ホトトギスは隣の逗子市の市花に指定され
た。ヤマホトトギスは、三浦半島でもあまり見られ
ない植物である。

葉山地区の林には、スダジイ、シロダモ、タブノキ、ビ
ナンカズラ、カラスザンショウ、アオキ、ヤブデマリ等
の暖帯色の樹木でできており、1から4にあげた植物は
そのような木々の中で生育している。(石渡 宏)

フィールドノートから

そこに一個体しかない。狭い地域に少ししか見られな
い。広い地域にわたってみられるが少ない。こうしたも
のの中から選んで書いた。また、産地を、鎌倉市-2を
KA-2、逗子市をZU、葉山町をHAY、横須賀市-
5をYO-5、三浦市をMIU、城ヶ島をJOであらわ
した。

1 トウゲシバ (ヒカゲノカズラ科)

横浜市緑区の谷戸で群生しているのをみたが、こ
ちらでは少ない。 KA-1

2 コシダ (ウラジロ科) ZU

3 ウラジロ (ウラジロ科)

伊豆半島に行くと2, 3はどこでも見られるが、
当地では一株とか数株と少ない。 ZU, YO-2

4 オオバノハチジョウシダ (イノモトソウ科)

川辺の不安定な場所に自生。 HAY

5 ヘラシダ (オンダ科)

暗く湿っぽい岩場に見られるが量的には多くない。
KA-1

6 ツルデンダ (オンダ科)

乾いた岩場に見られるが少ない。 KA-1, 2

7 ヒメカナワラビ (オンダ科)

道ばたの半陽の土手で見られる。群生するほどない
ので、目立たない存在。

KA-1, HAY, YO-1

8 コタニワタリ (オンダ科)

1959年に見つかった時はかなりあったと聞か、薄
暗い谷戸の斜面に今は一株しかない。先年、奥湯河原
の石垣の所で見たと一株はどうなっているのだろう。

YO-1

三浦ブロックの稀少植物

9 イズアサツキ (ユリ科)

1973年、伊豆の小磯海岸で発見されたもので、アサ
ツキの変種とされている。伊豆瓜木崎のものはいい環
境にはえているが、三浦のは草むらの中にあるので心
もとない。 MIU

10 ギンラン (ラン科) MIU

11 キンラン (ラン科)

10, 11 は、クヌギ、コナラの二次林にひっそりと咲
くが、山野草ブームのあおりをくって少なくなって来
た。 MIU

12 ミヤマウズラ (ラン科)

常緑広葉樹林下に見られるが、これも少なくなって
きた。 三浦全域

13 フウラン (ラン科)

ヨウラクランもあつたと聞か、今はもうないらし
い。最近見つけられたもので、カキの木に着生したフ
ウランは二、三株のようである。 HAY

14 ウバメガシ (ブナ科)

ある図鑑でウバメガシの分布を神奈川県以西一琉球
としているが、自生の一株をようやく見つけることが
できた。 JO

15 ヤナギイチゴ (イラクサ科)

1953年に故大谷茂氏が猿島で発見された。対岸の鯉
山にもあり、関東以西に分布する。 YO-1

16 スハマソウ (キンポウゲ科)

根出葉、茎葉の裂片が鈍頭一円頭なのでスハマソウ
と考える。花は白で3月上旬に開いた。 KA-1

17 ミツバベンケイソウ (ベンケイソウ科)

葉は3輪生、まれに4-5輪生。小型の株では対生
する。 HAY

- 18 ハマナタマメ (マメ科)
南房総には点在するようだが、こちらでは少ない。
MIU
- 19 ハイメドハギ (マメ科)
メドハギの這う型で、河原や海岸に見られる。JO
- 20 シラキ (トウダイグサ科)
シラキは、材の色が白いからといわれる。HAY
- 21 トチノキ (トチノキ科)
森戸川ぞいの林にただ1本生えていて、自生かどうかはわからない。
HAY
- 22 ミズキンバイ (アカバナ科)
耕地整理のために移植された先はだめ。もとあった場所の近くに、わずかだが残っているようだ。
MIU
- 23 ミシマサイコ (セリ科)
解熱の薬として採られたのだろうか、今は少ないものとなった。海辺の傾斜面に見られる。
MIU
- 24 ハマイズキボウフウ (セリ科)
イブキボウフウに比べて葉が厚く、裂片の広い海岸型の植物。
MIU
- 25 フデリンドウ (リンドウ科)
つぼみを筆の穂先に見立てたという。YO-1
- 26 スナビキソウ (ムラサキ科)
コルク質の果実は海水に浮いて散布するが、三浦の海岸では多くない。
MIU
- 27 カリガネソウ (クマツヅラ科)
鈴木美恵子氏の標本を見た。今年は現地に出かけた。
MIU
- 28 マネキグサ (シソ科)
横横道路の開発で無くなるかと心配したが、橋脚がそこを避けて建ったのでほっとした。
YO-1
- 29 ツクバキンモンソウ (シソ科)
ニシキゴロモと誤認されていた種。フロラかながわNO.16で、神奈川の稀産、貴重植物にあげられている。対岸の鵜山にも自生の記録がある。横浜緑区の谷戸で見た一株は、心ない人の手で姿を消した。
MIU
- 30 イヌノフグリ (ゴマノハグサ科)
今は少なくなった植物の一つだが、人家の石垣などにかすかに息づいているといったようすで見られる。
YO-2, MIU
- 31 フラサバソウ (ゴマノハグサ科)
- ヨーロッパ、アフリカ産の帰化植物だが、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリのようにふるまうことなく、道ばたの一角に行儀よく生活しているといったようす。
YO-1
- 32 オミナエシ (オミナエシ科)
鈴木美恵子氏の標本を見た。以前は横須賀の山野にもあったらしい。お月見のせいではあるまいが、今は見られない。
MIU
- 33 ソナレマツムシソウ (マツムシソウ科)
マツムシソウの海岸型で、丈が低く、葉が厚い。三浦の海岸にはもうない。
YO-4
- 34 ユキヨモギ (キク科)
全体が綿毛で覆われ、雪のように白い。分布は鎌倉の海岸と三宅島という。
KA-1, 2
- 35 ハマコンギク (キク科)
ノコンギクの海岸型で、葉は卵円形で鈍頭、欠刻状の鋸歯がある。神奈川、伊豆半島の海岸に生える。
YO-2
- 36 ワダン (キク科)
千葉、神奈川、伊豆七島の海岸の岩や隙地に生える。伊豆半島は城ヶ崎海岸から九州にはアゼトウナが、それから先、南西の島々にはホソバワダンが自生する。ワダンを取る人はいないが、海岸の崖の崩壊などで少しずつ減っているようである。
三浦全域
- 37 ハマボウ (アオイ科)
7-8月、淡黄色の花を開く。一日花である。天神島が分布上の北限となる。このハマボウは1935年、人事院総裁であった故佐藤達夫氏の発見によるもので、氏は著書にこうかいている。「なぎさを歩いていると、葉もあまりついていない焼けぼっくりのような貧弱な低木が、淡黄色の美しい花をつけているのが目についた。恥ずかしいことだが、それが何であるかは分からない。花の形がムクゲそっくりなので、ムクゲの類の園芸植物が逸出したものだろうと思いつつ、とにかく標本に持って帰った。」
YO-4
- 38 マナズルキイチゴ (バラ科)
モミジイチゴとカジイチゴの雑種である。モミジイチゴに比べてとげの少ないものや、全くないものなどがあり、花は1-2個をつける。(モミジイチゴは1個、カジイチゴは数個) 主として海岸に見られる。
YO-2 (山内 好孝)

3年ほど県立博物館のアルバイトとして植物誌の仕事を手伝って頂いた森本七子さんが、新木場の木材会社に就職されることになりました。現在の植物

誌のコンピュータのデータはほとんど森本さんが入力されたものです。長い間有難うございました。(事務局)

厚木のフロラ調査ノート

1. タチネコハギ (オオネコハギ)

Lespedeza pilosa Sieb. et Zucc.

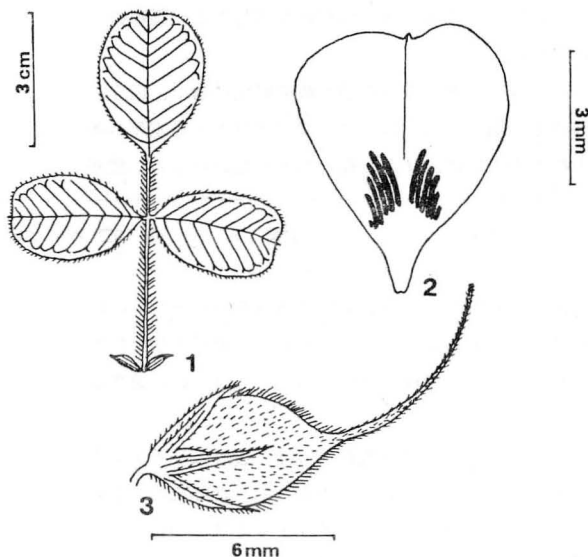
var. *erecta* Hatusima

1984年8月11日 厚木市貝殻坂 (AT-1) で低木状に叢生するマメ科植物数株を見つけ、その後9月8日に花、10月13日に果実のついた標本を得た。

生育地は、山林を崩して造成した大学グラウンドの入口わき、マルバハギ・バッコヤナギなども生える荒地である。この植物の特徴は、下の図および表に示した。茎が立ち、小葉が大きいことを除くとネコハギに極めて酷似していることからタチネコハギと同定した。県内では初めての記録と思われるが、今後他の地区での発見を期待したい。

なおタチネコハギは、初島佳彦氏が植物分類地理4巻1935に発表されたものである。同定にあたって国立科学博物館のタチネコハギ標本を参考にしたが、それは次の4点である。

- 1 : 1967年6月11日 埼玉県金ヶ嶽 S. Okuyama
- 2 : 1942年8月16日 埼玉県長瀬 矢野 佐
- 3 : 1953年10月4日 愛知県富山村 鳥居喜一
- 4 : 1932年8月25日 熊本県三玉村 上妻博之



タチネコハギ 1 葉 2 花の旗弁 3 果実
(1984.9.8 厚木市貝がら坂 Suwa 4753, 1984.10.13 厚木市貝がら坂 Suwa 4819)

ネコハギと厚木産タチネコハギの比較

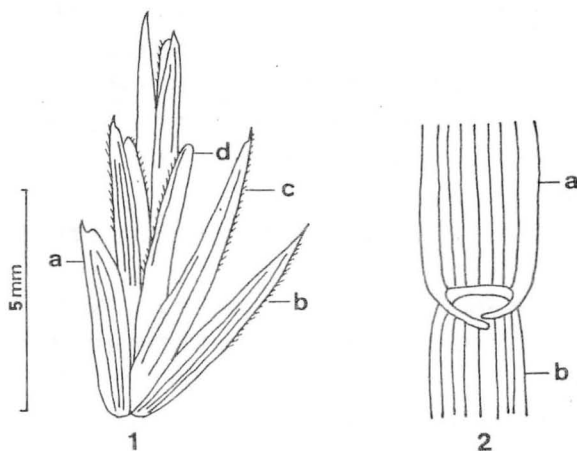
形質	ネコハギ*	厚木産タチネコハギ
茎	軟毛密生、横に這う。	軟毛密生、直立または斜上。85~190cm.
小葉	広倒卵形、微凹頭 長さ 10~20mm. 幅 8~15mm.	左 同 長さ 15~32mm. 幅 10~25mm.
托葉	披針形	披針形、長さ5mm.
花	黄白色、旗弁に紫斑、 1~5個集合。 長さ 7~8mm.	左 同 長さ 7~8mm.
がく	裂片は線形、下部は少し幅が広い。 長さ 3.5mm.	左 同 長さ 4.5mm.
果実	広卵形、軟毛密生。 長さ 3~4mm.	左 同 長さ 6mm.

* 大井次郎・至文堂版1983、北村四郎他・保育社版1974による。

2. シバムギ (ヒメカモジグサ)

Agropyron repens (Linn.) P. Beauv.

1984年6月17日 厚木市銅座金山 (AT-1) で数十本生育している中から標本を得た。生育地は谷戸田の口にある農家わきの道端である。



1 シバムギ 小穂 a 第一苞穎 b 第二苞穎
c 第二小花護穎 d 第二小花内穎
2 シバムギ 葉 a 葉身 b 葉鞘

標本は、高さ57cm、葉身25cm、葉幅6mm、葉舌の高さ1mm、長さ1cmの小穂を18個位つける。一見Lolium属のホソムギを思わせる草姿だが、地下茎があり、図に示したように小穂にはほぼ同形の苞穎が2個ある。護穎のノギは短い。

シバムギは、地中海沿岸地原産の帰化植物で、国立科学博物館で調べたヨーロッパ・北アメリカ・日本産の多数の標本の中には、ノギの長いものと短いものの二型が

見られた。日本産の標本は十数枚あったが、神奈川県産は次の2点でいずれもノギは長い型である。

- 1：1943年6月10日 横浜市新山下町 伊達健夫
- 2：1943年6月10日 横浜市 久内清孝

おわりに、標本の閲覧・文献の検索に便宜をはかって頂いた国立科学博物館金井弘夫先生、県立博物館高橋秀男先生に御礼を申し上げます。(諏訪哲夫)

厚木-4でハコネイノデを発見

会報17号で厚木-4のシダ類の報告を致しました際に、サイゴクイノデが2箇所にあるものの、量が少ないので、これを片親とする雑種はまだ見つかっていないと書きました。

自生地の一つの七沢の亀石付近は、近くにアイアスカイノデ、イノデが見られますので、もしかしたらと思いついて調査しましたところ、ハコネイノデを1株見つけることができました。サイゴクイノデは山道に沿った斜面に点々とあるのですが、ハコネイノデはその斜面の一番上のところにあり、かなり立派な株です。あたりをよく調べ

ましたところ、サイゴクイノデの間にごく少数ですがアイアスカイノデも見られました。標本は国立科学博物館の中池敏之先生にも確認をして頂いてあります。

ハコネイノデは倉田悟先生が「北陸の植物」9巻3-4号(1961年)に正式に発表されたもので、サイゴクイノデとアイアスカイノデの雑種とされています。箱根の須雲川の谷で先生自ら採集された標本(1959年7月採集)をタイプとされており、学名も箱根にちなんでPolystichum x hakonense Kurataとなっています。各地の両親種の混生地で見ついています。(山本 明)

海老名で採集された珍しい植物

ウマノズクサ (ウマノズクサ科)

海老名でもウマノズクサを採集することが出来ました。

自動車の運転が出来ない私は、何処へ行くのも歩くことが第一。足下に一寸目をやった草むらの中に思いがけない植物に巡り合うことがあります。ウマノズクサもこんなときに出会いました。小田急線の線路敷地内の草むらで、座間駅と海老名駅とのほぼ中間の下り線側(上今泉一丁目)の境界柵と他の植物につるをからませましたが、毎年、夏の草刈りで頭を刈り取られ、ここでは、開花しないようです。

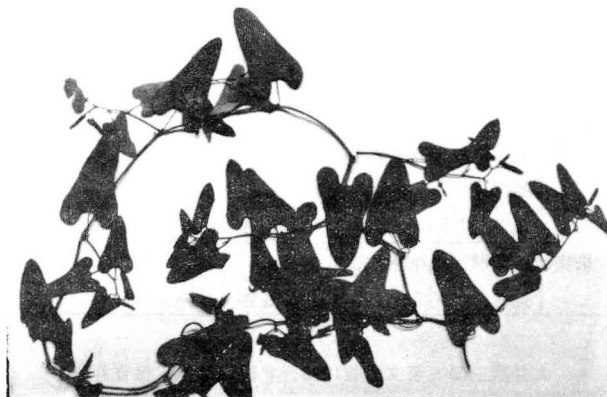
1984年7月まだつぼみが見つからない頃ですが、さく葉にしておきました。

もう一個所、1984年9月7日、友人と二人で「緑の国勢調査」をかねて歩いた時です。大谷と今里の境で、水田地帯の真ん中を流れる幹線水路ぞいの土手。危険防止に張りめぐらされた金網のフェンスに、小さなつぼみをつけたウマノズクサは数箇所見られましたが、この時はいずれも開花には早く、つるのながさは1メートル位。これも稲刈りの頃には、恐らく刈り取られてしまいうるので、採集しておきました。

これらは1985年1月20日の県央地区ブロック会で、高

橋秀男先生にウマノズクサと同定していただきました。そして、珍しくなって来ている植物の一つであると言うお話でした。

1984年3月の仮目録では、ウマノズクサは23メッシュで採集されており、海老名を含めて、24メッシュで確認されているようです。オオバウマノズクサは、64メッシュで確認されており、いずれ出会え、採集出来るのではと楽しみにしております。(森 百合子)



オオヒナノウスツボ (ゴマノハグサ科)

Scrophularia kakudensis Franch.

EB Sep. 11, 1984

発見者 森 百合子 海老名市上今泉三丁目

国鉄相模線は、「横山九里の土手」といわれる相模川

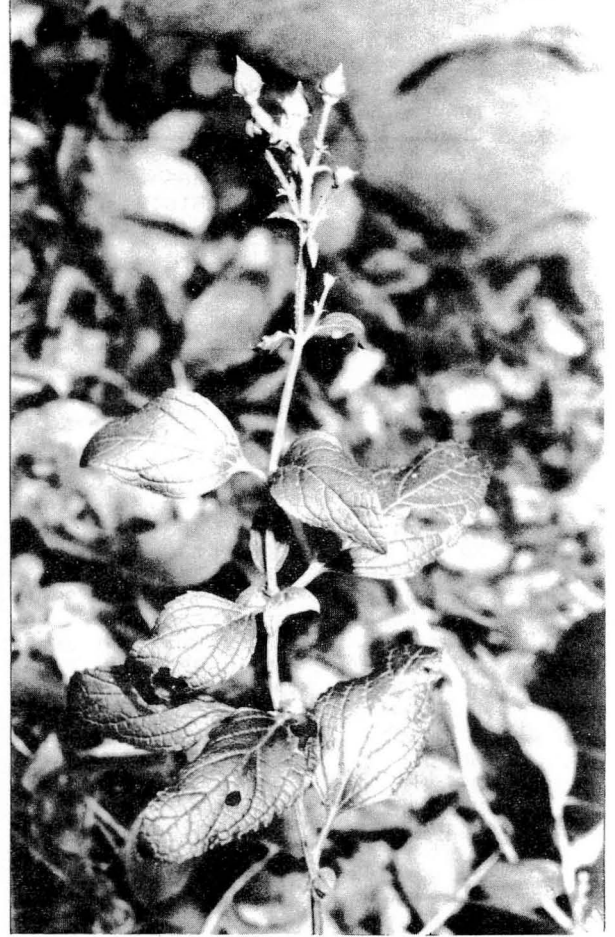
河岸段丘にそって走るが、この土手と水田の境で、数株発見されているが、今回の場所は、横山九里の土手の続きで、地形的にも似ていてすぐそばである。

また、KI-3, NOV. 4, 1984 清川法輪堂林道でも発見されているが、県内では稀少植物であろう。(伊藤健三)



オオヒナノウスツボ

1981. 9. 2 座間市根下 [Suwa]



オオヒナノウスツボ

1980. 11. 8 座間市根下 [Suwa]

アレチハナガサ (1984年10月14日採集、E B)

海老名市国分にある大手スーパーの駐車場わきの溝にそって歩いていたところ、見慣れない花を見つけた。以前にもここで採集しそびれてしまったが、花が淡紫色のムグラを見かけたことがあったので、今回は忘れずに採集したところ本種であった。この植物は南米産の最近帰化した植物であって、ヤナギハナガサのように全国的に広がっている訳ではなく、港湾付近に雑草化している。採集は10月であったが、花期は夏で、特徴は茎の切り口

が方形でざらつき、葉は深い歯があって葉面の脈は細かいものまで凹んでいる。花は淡紫色、米粒ほどで、花穂の下から上に順次咲く。また枝の分岐がはげしく、根元は1本でも繁った状態であった。神奈川県では鎌倉、横須賀、三浦、川崎(港北、鶴見)、横浜(金沢)で出ているが県央では初めてである。きっと、駐車場の埋め立ての土にまじって運ばれてきたのか、またはスーパーのDIYセンターが近くにあるので資材 と共に来たのだろうか。今後の推移に興味を持つ。(羽野雅子)

神奈川県植物誌メッシュ別種類数一覧

		総計	標本	その他			総計	標本	その他
1	藤野 1	545	(541)	+ (4)	55	秦野 1	468	(466)	+ (2)
2	藤野 2	419	(419)	+ (0)	56	秦野 2	836	(836)	+ (0)
3	相模湖	623	(617)	+ (6)	57	秦野 3	915	(905)	+ (10)
4	津久井1	293	(293)	+ (0)	58	秦野 4	899	(897)	+ (2)
5	津久井2	263	(262)	+ (1)	59	秦野 5	776	(776)	+ (0)
6	津久井3	647	(638)	+ (9)	60	大山	365	(360)	+ (5)
7	津久井4	351	(346)	+ (5)	61	伊勢原1	950	(946)	+ (4)
8	津久井5	678	(455)	+ (223)	62	伊勢原2	643	(642)	+ (1)
9	城山	703	(665)	+ (38)	63	伊勢原3	732	(732)	+ (0)
10	山北 1	411	(410)	+ (1)	64	平塚 1	904	(897)	+ (7)
11	山北 2	366	(361)	+ (5)	65	平塚 2	650	(649)	+ (1)
12	山北 3	386	(356)	+ (30)	66	平塚 3	609	(606)	+ (3)
13	山北 4	499	(485)	+ (14)	67	二宮	745	(743)	+ (2)
14	山北 5	646	(618)	+ (28)	68	大磯	893	(892)	+ (1)
15	山北 6	649	(610)	+ (39)	69	茅ヶ崎1	827	(827)	+ (0)
16	山北 7	567	(561)	+ (6)	70	茅ヶ崎2	707	(706)	+ (1)
17	山北 8	488	(462)	+ (26)	71	寒川	678	(678)	+ (0)
18	南足柄1	732	(730)	+ (2)	72	藤沢 1	704	(701)	+ (3)
19	南足柄2	476	(448)	+ (28)	73	藤沢 2	708	(705)	+ (3)
20	南足柄3	484	(474)	+ (10)	74	藤沢 3	747	(747)	+ (0)
21	開成	282	(281)	+ (1)	75	汀の島	556	(451)	+ (105)
22	松田	607	(600)	+ (7)	76	多摩	630	(617)	+ (13)
23	大井	739	(739)	+ (0)	77	高津	453	(452)	+ (1)
24	中井	765	(764)	+ (1)	78	中原	383	(383)	+ (0)
25	箱根 1	610	(566)	+ (44)	79	幸	177	(177)	+ (0)
26	箱根 2	535	(532)	+ (3)	80	川崎	190	(190)	+ (0)
27	箱根 3	8	(4)	+ (4)	81	緑 1	841	(835)	+ (6)
28	箱根 4	519	(463)	+ (56)	82	緑 2	593	(593)	+ (0)
29	箱根 5	528	(472)	+ (56)	83	港南	533	(528)	+ (5)
30	箱根 6	448	(442)	+ (6)	84	神奈川	373	(368)	+ (5)
31	湯河原1	470	(112)	+ (358)	85	鶴見	629	(625)	+ (4)
32	湯河原2	604	(596)	+ (8)	86	湘谷	437	(435)	+ (2)
33	真鶴	768	(504)	+ (264)	87	旭	525	(498)	+ (27)
34	小田原1	452	(452)	+ (0)	88	保土ヶ谷	727	(721)	+ (6)
35	小田原2	297	(262)	+ (35)	89	戸塚 1	414	(298)	+ (116)
36	小田原3	771	(765)	+ (6)	90	戸塚 2	283	(272)	+ (11)
37	小田原4	541	(534)	+ (7)	91	戸塚 3	292	(289)	+ (3)
38	清川 1	334	(328)	+ (6)	92	西	236	(236)	+ (0)
39	清川 2	504	(446)	+ (58)	93	南	452	(435)	+ (17)
40	清川 3	646	(646)	+ (0)	94	中	454	(449)	+ (5)
41	愛川	998	(926)	+ (72)	95	港南	490	(488)	+ (2)
42	相模原1	503	(472)	+ (31)	96	磯子	497	(492)	+ (5)
43	相模原2	379	(333)	+ (46)	97	金沢	740	(724)	+ (16)
44	相模原3	340	(340)	+ (0)	98	鎌倉 1	685	(658)	+ (27)
45	相模原4	522	(519)	+ (3)	99	鎌倉 2	676	(672)	+ (4)
46	厚木 1	814	(757)	+ (57)	100	逗子	833	(782)	+ (51)
47	厚木 2	304	(265)	+ (39)	101	葉山	676	(645)	+ (31)
48	厚木 3	603	(510)	+ (93)	102	横須賀1	751	(729)	+ (22)
49	厚木 4	655	(651)	+ (4)	103	横須賀2	639	(632)	+ (7)
50	厚木 5	643	(642)	+ (1)	104	横須賀3	623	(616)	+ (7)
51	座間	865	(851)	+ (14)	105	横須賀4	750	(734)	+ (16)
52	大和	762	(761)	+ (1)	106	横須賀5	668	(662)	+ (6)
53	海老名	792	(781)	+ (11)	107	三浦	757	(749)	+ (8)
54	綾瀬	685	(681)	+ (4)	108	城ヶ島	361	(359)	+ (2)

全データ数 = 62599 (標本数 = 60253 その他 = 2346)

今年度の仮目録が出来ましたが、いろいろ手違いで、地域名の誤りや欠落が多く、担当者として深くお詫び申し上げる次第です。抜けおちた若干の種類については、近日中に訂正をお届けします。大きなところはアケビ科の欠落です。

これまで植物誌のデータ処理はNECのN88BASICでのプログラムに依っておこなって来ましたが、昨年末にMS-DOS上のN88BASICが発売されましたので、今年初めからファイルをMS-DOS上にうつし、プログラムも全面的に書き換えました。そのメリットはフロッピーの収容力が20%ほどふえ、今まで2枚に分

かれていたデータを1枚にまとめることが出来ること、コンパイラによってプログラムの処理速度を数倍に高めることが出来る。PascalやC等のMS-DOS上の言語によって、さらに数十倍処理を高速化することが出来る、などです。その際にうっかりして、いくつか間違いをしでかしました。その後ひとつひとつデータをチェックしました。現在のデータの状況は上にあげたとおりです。厚木-5で頑張ってもらった武井尚さん、データは上の表のように正してあります。ご了承ください。(事務局)